５，主題構成表

主題名　　ともだち　　（三枝小学校２年○組）　　資料名　「ともだちっていいな」

■内容項目　　２－（３）
友達と仲良くし、助け合おうとする態度を育てる。

■資料の分析
・動物たちの学級で給食の時間にパンダさんが吐いてしまう。それを見たコアラさんは何も言わず、自分の牛乳をそこへかける。この姿から、コアラさんがパンダさんをかばってやろうとする優しさを感じ取らせることができる。
・先生がみんなの前で「なぜそんなことをした。」と怒る。しかしコアラさんは自分がしかられてもパンダのことを考えて口を閉ざす。この意志の強さに児童の感じ方や考え方を引き出すことができる。
・友だちが困っている時、どのようなかたちででも助けてやろうとする優しさにあこがれを持ち、ニコニコと笑顔いっぱいのクラスにしていくことへ共感することができる。

■児童の実態
・いろいろな活動に意欲的に取り組み、声を掛け合って楽しむことができる。
・外遊びを楽しむが、個人遊びが多く仲間遊びが少ない。

■意識の要因
・自己を押し通そうとするあまりけんかになったり、ルールを守らない子がいるため、みんなで楽しめないことが時々ある。
・自分さえよければいいといった行動を解決する力が弱い。

■価値の分析
・友達が泣いていても知らん顔をしたり、自分の後ろに人がいるのに戸を閉めてしまうような優しさのない姿を目にすることがある。困っている子に「どうしたのかな」と気を配れるような優しさのあるクラスになってほしいと考える。
・低学年は、自分がしかられても友達をかばうということが出来る時期ではない。しかし、そこまで友達を思うことのできる仲間がいたら『すてきだなあ』とあこがれをもつことができるだろう。
・この時期に友だちとの生活を振り返り、うれしいな、よかつたなといった経験を語ることで、いつもみんなが笑顔で生活するために、時には勇気を出して友だちを助けてやったり、困っている人のために自ら行動してみようという気持ちを持たせられると考える。

■ねらい
パンダさんが吐いてしまったとき、牛乳をかけたコアラさんの気持ちを考えることを通し、困っている友だちがいたら、『なぜかな』と考えて行動をすることが、楽しいクラスになることに気付き、友だちと仲良くし助け合おうとする態度を養う。

■展開の構想
・児童が興味や好奇心を持てるように紙芝居を使い、登場人物や行動を押さえながら学習を進める。
・児童の思考がコアラさんのとった行動が善悪的な方へずれないように留意し、パンダの気持ちを考えた勇気ある行動であることをおさえながら進める。

・展開後段では、自分たちの生活を振り返り、自分も友達を大切にしているな、自分も友達に大切にされているなということが感じられるようにする。

■基本発問（◎中心発問）
・みんなは、学校でどんな時が楽しいですか。

・パンダさんが泣いてしまった時、コアラさんが牛乳をかけたよ。コアラさんはどんなことを考えて牛乳をかけたのかな。

・パンダさんが訳を話した時、クラスのみんながにっこり笑ったね。コアラさんはどんな気持ちだったかな。

◎みんなは友だちっていいなと思ったことはないかな。